

## 概要

- 果樹農業を推進するためには、消費者ニーズを踏まえ、本県に適した新品種を安定的に生産していくことが重要である。
- このため、本県のオリジナル品種や新たな有望品種について、栽培技術の確立を早急に図り、産地化を推進していくことが急務となっている。
- ぶどう「シャインマスカット」も全国的に生産量が増加し、産地間競争が激化していることから、主要産地として、高品質果実の安定生産に向けた取り組みを進めた。

## 具体的な成果

普及指導員とJA営農指導員を対象に、栽培管理について研修会を開催し技術統一を図ることにより、オリジナル品種、有望品種の出荷量が拡大した。また、栽培上の課題を抽出し栽培の手引きの作成・見直しを行った。

### 1 ぶどう「甲斐キング」の生産拡大

- 摘粒、着色管理等の栽培管理について研修会を開催した。
- 出荷量 R5:61トン⇒R6:89トン

### 2 もも「夢みずき」の生産拡大

- 出荷量 R5:802トン⇒R6:768トン（生理落果による減収）

### 3 もも「夢桃香」の産地化

- 収穫適期の目安や省力化に向けた一斉収穫について研修会を開催した。また、県内2ヶ所の実証圃において、外観による収穫適期の把握、果実品質について検討した。
- 出荷量 R5:94トン⇒R6:131トン

### 4 ぶどう「サンシャインレッド」の産地化

- 房づくり、摘粒、着色管理、収穫、試食検討、剪定について研修会を開催した。
- 出荷量 R5:3トン⇒R6:26トン

### 5 ぶどう「シャインマスカット」の安定生産

- 栽培の手引きの改訂と併せて、黒とう病防除マニュアルも改訂し、栽培者へ配付することで注意喚起を行った。
- ハウス「シャインマスカット」では、加温体系及びハウスシャインマスカット講習会資料の見直しを行い、JAとの連携による説明会において栽培者へ情報提供した。



サンシャインレッド

## 普及指導員の活動

平成14年～ 平成21年～ (平成24年～)	■ 山梨県オリジナル品種ブランド化推進会議に参画 ■ オリジナル品種栽培の手引き作成支援 (苗木供給開始) 「夢みずき」：平成24年～、「甲斐ベリー3(甲斐キング)」：平成27年～、 「甲斐トウ果17(夢桃香)」：平成29年～、「甲斐ベリー7(サンシャインレッド)」： 令和2年～
平成28年 ～令和元年	■ 「夢みずき」栽培の現地実証
令和2年～	■ 「夢桃香」の現地栽培実証による地域における栽培特性の把握
令和6年～	■ 「サンシャインレッド」の現地栽培実証による地域における栽培特性の把握

## 普及指導員だからできたこと

- ・ JA等の関係機関との連携による現地実証ほの設置、試験場で開発した技術の地域適応性の実証など、コーディネート、スペシャリスト機能を活かした活動により生産安定に貢献した。

活動主体	果樹試験場 農業革新支援スタッフ	執筆者	松井 一憲
タイトル	果樹優良品種の導入による産地ブランドの確立		

## 1 活動の背景

もも、ぶどう、すももの生産量日本一を維持し、果樹農業を推進するためには、消費者ニーズを踏まえ、本県に適した新品種を安定的に生産していくことが重要です。

このため、本県のオリジナル品種や新たな有望品種について、栽培技術の確立を早急に図り、産地化を推進していくことが急務となっています。また、ぶどう「シャインマスカット」も全国的に生産量が増加し、産地間競争が激化していることから、主要産地として、高品質果実の安定生産に向けた取り組みを進めました。

## 2 活動の経過

県オリジナル品種の普及・定着と「シャインマスカット」の安定生産に向け、各産地の地域普及センター、試験研究部門、JA、行政各課等と連携を図り進めました。

### (1) 山梨県オリジナル品種ブランド化推進会議への参画

JA全農やまなしが事務局となる推進会議に参画し、県オリジナル品種の普及定着やブランド化・販売促進、新品種候補について検討するとともに、苗木の配布や栽培の手引きの作成・見直しについて支援しました。

### (2) 県オリジナル品種「夢桃香」、「サンシャインレッド」の地域における栽培特性の把握

地域普及センターと連携し、南アルプス市（2ヶ所）、笛吹市、甲州市の4ヶ所に栽培管理実証圃を設置し、収穫時期や果実品質について検討しました。

### (3) オリジナル品種栽培管理研修会の開催

栽培管理技術の普及に向け、普及指導員とJA営農指導員を対象にサンシャインレッド4回、甲斐キング2回、夢桃香2回、のべ8回の研修会を開催しました。



サンシャインレッド開花期研修会(5月)



実証ほ(若木)のサンシャインレッド状況

#### (4) 「シャインマスカット」の生産安定

普及指導員とJA営農指導員を対象とした研修会において、栽培管理技術の普及を図るとともに、近年問題となっている黒とう病対策の徹底について指導するとともに、JA全農やまなしが作成する栽培の手引き「シャインマスカットの栽培管理のポイント」の見直しについて支援しました。また、ハウスシャインマスカットの講習会資料についても、試験研究部門や地域普及センターと連携し見直しを行いました。

### 3 活動の成果

#### (1) ぶどう「甲斐キング」の生産拡大

令和6年度は、県内で89tが出荷されました。

果樹試験場において、普及指導員と営農指導員を対象に、摘粒、着色管理等について研修会を開催しました。

栽培の手引きは、極大粒果実生産に向けた項について見直しを行いました。

#### (2) もも「夢みずき」の生産拡大

令和6年度は、県内で768tが出荷されました。

栽培の手引きは、袋かけや収穫について見直しを行いました。

#### (3) もも「夢桃香」の産地化

令和6年度は、県内で131tが出荷されました。

果樹試験場において、普及指導員を対象に、収穫適期の目安や省力化に向けた一斉収穫について研修会を開催しました。また、県内2ヶ所の実証圃において、外観による収穫適期の把握、果実品質について検討しました。

栽培の手引きは、収穫基準（地色や着色）について改訂しました。

#### (4) ぶどう「サンシャインレッド」の産地化

令和6年度は、県内で26tが出荷されました。

果樹試験場において、普及指導員と営農指導員を対象に、房づくり、摘粒、着色管理、収穫、試食検討、剪定について研修会を開催しました。

栽培の手引きは、整枝・剪定、着色管理等について改訂しました。

#### (5) 「シャインマスカット」の安定生産

栽培の手引きは、令和6年度版として改訂され、県内の農家に配付されることとなりました。黒とう病防除マニュアルも改訂し、栽培者へ配付することで注意喚起を行いました。

ハウス「シャインマスカット」では、加温体系及びハウスシャインマスカット講習会資料の見直しを行い、JAとの連携による説明会において栽培者へ情報提供しました。

### 4 次年度の取り組み

引き続き地域普及センター、試験研究部門、JA、行政各課等と連携し、県オリジナル品種の普及・定着と産地化、「シャインマスカット」の安定生産に向けた取り組みを支援していきます。